

令和6年度 ちゃぶ台次世代コーホート（第6回研修会）開催要項

令和6年度 同 Advanced Course（第9回研修会）開催要項

1. 趣 旨
教職志望学生や自立期・向上・充実期にある若手・中堅教員等が、教員としての資質の深化、教職実践課題の解決力や省察力等の醸成を図ることを目指した協働型教職研修を行う。
特に、教科等における授業づくり、生徒指導・学級経営・特別支援教育等の充実深化に向けた模擬授業や実践事例研究等、教職キャリア形成に関わる協議等を行うことをとおして、教育指導の充実を図り、今後のキャリアデザインに対する意識の高揚を図る。
2. 主 催
山口大学教育学部、同 大学院教育学研究科
独立行政法人教職員支援機構山口大学センター
3. 共 催
山口県教育委員会、山口市教育委員会
4. 開催日時
令和7年2月8日（土） 13:00～17:00
5. 開催場所
山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム・22・23・24・41・42・43 番教室」
山口市吉田 1677-1 教育学部B棟 1階・2階・4階
6. 参加者
教職志望学生、教職大学院生、現職教員、教育委員会等関係者、大学教職員等
7. 研修内容
 - (1)開会行事
各会場 (13:00～13:10)
 - (2)課題研究発表 I (13:10～14:15)
 - 発表1（22 番教室）ちゃぶ台次世代コーホート参加者、まなびのつながりプロジェクトメンバー
山口大学教育学部小学校総合選修 2年 原 田 稔 生さん
山口大学教育学部小学校総合選修 2年 中 山 晃 希さん
山口大学教育学部小学校総合選修 2年 藤 田 隼 智さん
山口大学教育学部小学校総合選修 2年 山 本 颯 人さん
山口大学教育学部情報教育コース 2年 柏 原 朝 陽さん
 - 発表2（23 番教室）ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者
山口県山口市立平川小学校 教諭 白 石 真 也さん
 - 発表3（24 番教室）ちゃぶ台次世代コーホート参加者
山口県岩国市立由宇中学校 教諭 田 出 有 人さん
 - 発表4（41 番教室）ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者
山口県下関市立吉母小学校 教諭 岩 貞 太 祐さん
 - 発表5（42 番教室）ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者
山口県山口市立小郡中学校 教諭 和 田 剛 志さん
 - 発表6（43 番教室）やまぐち総合教育支援センター長期研修教員
山口県立美祢青嶺高等学校 教諭 原 田 加 奈さん

(3) 課題研究発表Ⅱ (14:30～15:35)

発表1 (22 番教室) やまぐち総合教育支援センター長期研修教員		
山口県宇部市立東岐波小学校	教諭	福田 真之さん
発表2 (23 番教室) ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者		
山口県下関市立吉母小学校	教諭	岩 貞 太 祐さん
発表3 (41 番教室) ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者		
山口県周南市立富田東小学校	教諭	松 田 真 実さん
発表4 (42 番教室) ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者		
山口県宇部市立藤山中学校	教諭	中 島 誠 忠さん
発表5 (43 番教室) やまぐち総合教育支援センター長期研修教員		
山口県周南市立岐陽中学校	教諭	大 谷 友香子さん

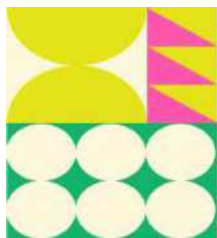
(4) 課題研究発表Ⅲ (15:50～16:55)

発表1 (22 番教室) ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者		
山口県防府市立華城小学校	教諭	村 本 涼 さん
発表2 (23 番教室) ちゃぶ台次世代コーホート参加者		
山口県岩国市立灘小学校	教諭	山 本 拓 実さん
発表3 (41 番教室) ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者		
山口県防府市立右田小学校	教諭	松 村 登志彦さん
発表4 (42 番教室) ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者		
山口県萩市立萩西中学校	教頭	長 岡 香 世さん
発表5 (43 番教室) やまぐち総合教育支援センター長期研修教員		
山口県防府市立牟礼中学校	教諭	渡 邊 弘 子さん

(5) 閉会行事 (16:55～17:00)

8. その他

- (1) 本研修事業は、山口大学教育学部「ちゃぶ台方式教職研修部」経費、独立行政法人教職員支援機構地域センター（山口大学センター）事業経費により運営される。



ちやぶ台次世代コーホート
第6回研修会
ちやぶ台次世代コーホート
Advanced Course
第9回研修会



山口大学教育学部・山口大学大学院教育学研究科・独立行政法人教職員支援機構山口大学センター・
山口県教育委員会・山口市教育委員会連携事業

2025.2.8 (土)
授業づくりや幅広い教育課題の
ワークショップや課題研究発表を
開催します！

会場：山口大学教育学部：B棟：ちやぶ台ルーム・2階教室・4階教室

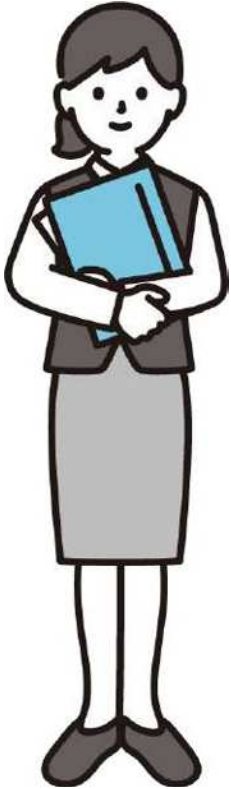
★受付は、ちやぶ台ルーム前（ベンチ）にて12:30～行います。
（天候によっては、ちやぶ台ルーム前にて）



会場案内



会場案内



教育学部B棟

4階	4 3 番教室	4 2 番教室	4 1 番教室
3階	3 3 番教室	3 2 番教室	3 1 番教室
2階	2 4 番教室	2 3 番教室	2 2 番教室
1階		ほ（っと）研（修）室	ちゃぶ台ルーム

天候がよければ、ベンチ辺りで受付

↓中庭



*32番教室は発表者、関係者等控え室として使用します。
*ちゃぶ台ルームは託児で使用します。

お申し込みについて

以下の、グーグルフォームからお申し込みください。



<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfHKYtb3eXoSPKFsyqRm8Bq7G9sJ5ty2L-YdmEWC5kuvrv2Jw/viewform?usp=sharing>

- *資料や会場設営、機器など準備の関係で、各講座の参加人数の事前把握が必要です。
第1部～第3部のどの講座に参加したいか、入力してください。
- *参加者の皆様にはデータを後日配信しますので、メールアドレスを収集いたしますが、本研修会以外では使用いたしません。
- *講義室が変更になる場合もありますので、
参加する皆様には、当日要項を後日配信いたします。
- *資料は事前にデータとしてお配りするものもありますので、
近くなりましたら、事務局（藤上真弓、fujikami@yamaguchi-u.ac.jp）からのメールを確認いただきますようお願い致します。

開会行事（13:00～13:10）

＊第1部で選択された講座が実施される
各講義室にて行います。



- 当日の流れや運営上のお願い
 - ・選択した講座に参加してください。
 - ・各会場は、運営上、**後ろのドアから出入り**してください。
 - ・印刷した資料が配られたら場合は、**各自一部**ということをお願いいたします。
 - ・データで配られた資料も、本研修会の受講者のみで共有し、**受講生以外に転送することはない**ようお願いいたします。
 - ・記録用と通信用、報告書用で、講座の様子を写真で撮影します。通信、報告書に掲載させていただく場合があります。ご都合が悪い場合、場面がありましたらスタッフや事務局（藤上真弓）にお伝えください。

第1部（13:10～14:15）

2階

【22番教室】発表者：ちやぶ台次世代コーホート参加者・まなびのつなかりプロジェクトメンバー
まなびのつなかりを生み出すために、学生の私たちが県内の高校生と取り組んでいること

山口大学教育学部小学校総合選修	2年	原田	稔生	さん
山口大学教育学部小学校総合選修	2年	中山	晃希	さん
山口大学教育学部小学校総合選修	2年	藤田	隼智	さん
山口大学教育学部小学校総合選修	2年	山本	颯人	さん
山口大学教育学部情報教育コース	2年	柏原	朝陽	さん

【23番教室】発表者：ちやぶ台次世代コーホートAdvanced course参加者
主体的な学びにつながる対話を体験しようー自己のキャリアプランニングを通してー

山口県山口市立平川小学校	教諭	白石	真也	さん
--------------	----	----	----	----

【24番教室】発表者：ちやぶ台次世代コーホート参加者

＊教職志望学生・教職経験1、2年目の教員対象

1年目教員が語る学校現場の真実～怒涛の日々をどう乗り越えるか～

山口県岩国市立由宇中学校	教諭	田出	有人	さん
--------------	----	----	----	----

4階

【41番教室】発表者：ちやぶ台次世代コーホートAdvanced course参加者
複式指導の算数基礎基本ークラスに2つの学年がいてどう授業を進めるの？ー

山口県下関市立吉母小学校	教諭	岩貞	太祐	さん
--------------	----	----	----	----

【42番教室】発表者：ちやぶ台次世代コーホートAdvanced course参加者
自閉症・情緒障害学級における一人ひとりの良さを活かした自立活動の実践ーキャリア教育の視点を活かしてー

山口県山口市立小郡中学校	教諭	和田	剛志	さん
--------------	----	----	----	----

【43番教室】発表者：やまぐち総合教育支援センター長期研修教員
生徒一人ひとりが学びやすい授業づくりに関する研究

ー高等学校における授業のユニバーサルデザイン化を通してー

山口県立美祢青嶺高等学校	教諭	原田	加奈	さん
--------------	----	----	----	----



第2部 (14:30～15:35)



2階

【22番教室】発表者：やまぐち総合教育支援センター長期研修教員
自ら問題解決に向けて動き出す児童の育成をめざした
小学校算数科の指導に関する研究
ー学習を調整する力を育む自由進度学習を通してー
山口県宇部市立東岐波小学校 教諭 福田 真之 さん

【23番教室】発表者：ちゃぶ台次世代コーホートAdvanced course参加者
＊教職志望学生・来年度教員になる方・新任のアドバイスの参考にしたい方対象
先輩からのアドバイス（卒業前から年度始めの動きについて）
ー小学校の年度始めってなにすればいいの？ー
山口県下関市立吉母小学校 教諭 岩貞 太祐 さん

4階

【41番教室】発表者：ちゃぶ台次世代コーホートAdvanced course参加者
人材育成につながる校内研修の在り方
山口県周南市立富田東小学校 教諭 松田 真実 さん

【42番教室】発表者：ちゃぶ台次世代コーホートAdvanced course参加者
道徳教育を核とした学級経営の在り方について
山口県宇部市立藤山中学校 教諭 中島 誠忠 さん

【43番教室】発表者：やまぐち総合教育支援センター長期研修教員
自ら学習を調整することができる
生徒の育成をめざした学習指導に関する研究
ー振り返りを次の学習につなげる実践を通してー
山口県周南市立岐陽中学校 教諭 大谷 友香子さん

第3部 (15:50～16:55)



2階

【22番教室】発表者：ちゃぶ台次世代コーホートAdvanced course参加者
あの子が学んでよかったと思える国語科授業をめざして
山口県防府市立華城小学校 教諭 村本 涼 さん

【23番教室】発表者：ちゃぶ台次世代コーホート参加者
＊教職志望学生・教職経験1、2年目の教員対象
3年目の小学校教諭が伝えられること
ー学部生・教職大学院生・小学校教諭としての
算数科を中心とした教職キャリア形成の道筋ー
山口県岩国市立灘小学校 教諭 山本 拓実 さん

4階

【41番教室】発表者：ちゃぶ台次世代コーホートAdvanced course参加者
AIハック ～AIと学校現場の親和性を探る～
山口県防府市立右田小学校 教諭 松村 登志彦さん

【42番教室】発表者：ちゃぶ台次世代コーホートAdvanced course参加者
探究的な学びとは…
山口県萩市立萩西中学校 教頭 長岡 香世 さん

【43番教室】発表者：やまぐち総合教育支援センター長期研修教員
自他を認めながら関わり合う人間関係づくりに関する研究
ー自他の理解を深める学びと
その振り返りによる学級活動を通してー
山口県防府市立牟礼中学校 教諭 渡邊 弘子 さん

振り返りについて

・以下のフォームより、振り返りや感想をお願いいたします。



<https://forms.gle/gmawGDt89ZPqr7XR8>



NITS・山口大学教職大学院・山口県教育委員会・山口県
PTA 連合会コラボ研修プログラム (NITS-Café) 学級通信
「現職教員と教職志望学生が保護者とともに創る協働セミナー」
2025.1.4 NITS 山口大学センター・山口大学教職大学院



子どもを真ん中にして、学びと育ち...からの〜「自立」を一緒に応援する関係づくり！ 教職員（学校）と保護者（家庭）は共に歩むパートナーを実感できたCaféでした！

今年度2回目の「NITS-Café」へ...「本日もご来店ありがとうございます。朝から美味しい珈琲、入（淹）れております... 空いているお席どうぞ... ごゆっくり！」

12月21日（土）、山口市「セントコア山口」でのCaféは、昨年度もお客さまから大好評で、「今年も絶対にやって！」と言われていた「保護者の皆さんと語りあう」交流のCaféです。ということで、メインゲストの保護者の皆さま15人に、学校の先生方23人、教育委員会事務局の先生方4人、これから先生になろうという学生さん50人、大学関係者13人と遠く茨城県つくば市からご参加下さった教職員支援機構（NITS）の先生方4人という109人の皆さまにご来店頂きました。「本当にありがとうございます。お店も一杯です。」

ある時は、心地よいBGMの中でお茶しているように... ある時は、まるで山口大学「ちゃぶ台ルーム」に居るかのよう... 教育や教職を語り、一緒に考え、成長しあえる学びと変容、成長の「場」が今日のCafé。とても素敵な一時でした。「NITS-café（現職教員と教職志望学生が保護者とともに創る協働セミナー）」の概要を報告します。「本当にたくさんのお客様にご来店頂きました。ありがとうございました。」



開店行事

まずは「マスター（山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻：いわゆる教職大学院）」の佐々木司専攻長から「開店のご挨拶（教職大学院の歩み、NITS や山口県 PTA 連合会との関わり等について敬意と謝意を込めて）」がありました。



続いて、「土曜日は仕事なんだけど抜けてきた（^^）」...！本当にお忙しい中、ご来店頂いた保護者（山口県 PTA 連合会役員の皆さん）をご紹介しました。お名前と所属のみ、敬称略で恐縮です。

松田龍信（大嶺中）、西川仁了（萩東中）、溝口憲治（伊陸小）、佐伯弘明（白石中）、安堂卓也（高森小）、廣兼愛子（椿東小）、逸見勇介（末武中）、藤井崇史（沼城小）、濱西里香（鴻南中）、脇 雅美（由宇小）、伊藤直弥（向井小）、金子賢二（大歳小）、角川早苗（山口高）、松原真奈美（西京高）、辻本千夏（事務局長）の皆さんでした。本当ににご多用にもかかわらず、駆けつけて頂きありがとうございました。感謝しております。

カフェ 子どもたちのために ～学校と家庭の連携・協働と互いの役割～

今回のCaféは「宿題（事前探求課題）」がありました。さすがです。ご来店のお客さま、みんなカンペキに仕上げてのご来店、感謝です。

Caféのおよその流れは5つのphaseから。

- ①「カフェの仲間になる」
- ②「学生から疑問に、現職教員と保護者が一緒に考える」
- ③「学校と家庭の連携の様子、自分の推しの取組を紹介する」
- ④「連携・協働のアイデアを提案する」
- ⑤「シェアする」 でした。皆さんの感想を「振り返り」から紹介します。



参加者のコメントから 「Café の内容について」

- ・ 本日は貴重な機会を頂きありがとうございました。実は、P 役員をしている私たちでも、現役の先生方とじっくりと話ができる機会はほとんど無く、有り難い、嬉しい時間でした。

昨今、先生方や学校についてはネガティブな話題ばかりですが、明るい方ばかりで、また一緒に連携・協働の取組も考えることができ、少し安心した気持ちにもなりました。下の子はまだ小 5 です。まだまだ一緒に頑張りましょうと先生方にもお伝え下さい。（PTA 役員）



- ・ 保護者の方や学生と直接話す機会はとても貴重な時間でした。これまでの保護者の方との関わりや PTA 活動について話している際に、学生から「PTA がどんな活動をしているのかよく分からない」との意見がありました。確かに、教員として働いているからこそ保護者がどのような活動をしているのか理解していますが、子どものころには意識していなかったのかもしれないと感じます。

参加されていた保護者の方も「PTA の活動に携わるまで、ベルマークが何に使われているのか分からなかった」と話され、執行部の方々が多くの活動をされているにもかかわらず、十分に発信されていないことも改めて実感しました。学校や保護者の双方が発信する機会はありますが、共同で行っている活動を知らせる場面が少ないと感じました。今後は、PTA 活動について子どもたちにも伝えていきたいと思います。

また、学生から「保護者に信頼される教師とはどのような存在か」という質問がありました。保護者の方から「とにかく話しやすいことが大切」との意見が出ており、安心しました。モンスターペアレンツという言葉が一人歩きしており、保護者の思いを聞き出せないと感じる場面もありますが、電話や面談でゆっくり話すと「言っているのか悩んでいた」と言われることがよくあります。

一方で、学生たちからは「保護者に何を言われるのか」「クレーマーが多いのでは」といった不安の声が聞かれました。そのような不安に寄り添いつつ、教員が保護者に対してマイナスなイメージを持たずに接することが大切だと感じます。人と人との関わりである以上、前向きに子どものためになる関係を築くことが前提であると再認識しました。また、保護者も様々な不安を抱える同じ人間であることを忘れず、若手教員の不安にも寄り添っていききたいと思います。



さらに、一緒にできることについて話し合った際には、総合的な学習の時間のアイデアがたくさん出ました。これから学校で実践していきたいと思うことが多くありました。地域の方だけでなく、保護者とも熟議をする時間がもっと増えると良いと感じました。（小学校）

- ・ PTA の方の意見を聞いたことは非常に大きな学びとなった。「信頼できる教員とは」という問いに対し、我々教員は児童が安心して過ごせる環境を挙げたが、保護者からは「感じよく挨拶してくれるかどうか」が挙げられた。保護者の方々が対人関係という視点で教員を捉えていることを実感した。このような意見が出るということは、挨拶すらできない教員が一定数いる現実を示唆しているとも言える。我々教員は「教職」ということを意識するあまり、そのような人として当たり前の振る舞いに対する構えができているか反省点として認識した。信頼関係の構築は、専門的な知識や役割以前に、日常的なコミュニケーションの中で築かれるものであることを再確認する機会となった。（小学校）
- ・ 実現・チャレンジしてみたいこととして、保護者から「企画から参加させてもらいたい」という意見が出され大いに考えさせられた。現場では、学校側の提案に対し、地域や保護者から「もっと具体的に提案してほしい」と求められることがある。一方で、学校としては、大枠だけを決めた上で内容を地域や保護者のアイデアに委ね、主体的に関与して貰いたいと考えている場合が多い。しかし、大枠が決まった後では、どうしても学校の意向に合わせようとして主体的に動きにくいと感じておられる現実がある。このような背景を理解した上で、家庭や地域との連携を進めるためには、学校が地域や保護者を「協働者」として捉え、対等な意識を持つことが必要で、これにより、双方の意見が活かされる本当の意味での協働が実現するのではないかと考えた。（小学校）



- ・ PTA 連合会の方が協議に入られて、保護者の率直な意見を聞くことができたことが学びになった。保護者の協力のありがたさは今までも感じていたところだが、他校の PTA の方々と話すことで、自分の勤務校とは違った距離感で話すことができた。

保護者の方と話す中でのあらたな気付きとしては、保護者も学校も互いに遠慮をしている部分が多くあるということだった。保護者と地域と学校とを巻き込んだ取組を考える活動では、PTAの方から「学校が地域や保護者を巻き込んだ活動を”やりたい”と思っていることが意外だ」というお話をいただいた。保護者としては、先生方をお願いしたいが働き方改革で仕事を増やしてはいけなく考えておられ、学校としては保護者が負担感に感じるのではないかと遠慮をするなど、お互い目指すところは同じでもうまく意思疎通ができていないことが分かった。（小学校）



・はじめに「学校と家庭・地域がお互いにオープンになる状況をどうつくるかがキーポイント」という話題になった。お互いのすべてをオープンにするのではなく、必要な壁はあってよいし、学校は出せる情報や見せられるものに線引きをする。PTAは先生が働きやすい環境を整え、先生は自分たちの役割を全うすることが大切であるという保護者の方の発言が印象に残っている。学校と家庭・地域がそれぞれの立て付けの中で役割を全うしながら必要なことを共有する、そのやり取りこそが「連携」であろう。

もう一つ、印象に残っているのが関係のつくり方・関わり方である。学校と家庭がそれぞれに対して「対面」の立場で話すとお互いの意見をぶつけるようになってしまう。そうではなく、何をめざしているのかを真ん中において、それに向かって話す「横の関係」をつくるのが大切である。

保護者の方との協議は、これまでと違った視点で学校を捉える、よい学びの機会となった。（中学校）

・教師はどうしても教師同士のつきあいに終始する。コミュニティ・スクールに移行しても、実際は地域とつながる教師は一部に限られる。PTAを含めた教職員以外の様々な人とつながり、思いや願いを語りあうことは、子どものよりよい成長だけでなく、教師自身や教職員組織の成長にもつながると確信した。（中学校）

・私の班は高校グループで、小・中に比べて、学校と保護者や地域との連携に難しさを感じながらの話し合いとなった。高校生を持つ保護者の方から「学校の様子が全く分からない」という指摘があった。原因として、子どもが親に学校のことを話さない、保護者が学校と一体となって行う活動が少ないことが指摘された。PTA以外の保護者も参加できる活動があれば、学校との意思疎通が図ることができ、学校への不安や不満が減少すると学んだ。また、高校生にとって学校が自分の地域でない場合もあるが、人間関係が上手くいけば自然とその地域に愛着が湧くのではないかとこの考えに納得した。高校においても学級経営や探求等での指導が大切だと気づいた。（学生）



・まさに、「ちゃぶ台」「Café」の名にふさわしい、楽しく充実した時間でした。何より若い皆さんの真摯な姿に、未来に対する大きな期待と安堵を覚えました。家庭教育や社会教育については、エリクソンに倣うと「世代継承性」という概念が私の中では核となってきます。人生のミドルを折り返す今、自身のためにエネルギーを費やしてきてこれまでの歩みから、次世代に対して知を循環させることがこれからライフステージにおける発達課題であり、それへの取組を通じて、自分自身を成長させていくことが求められていることをこうした場では強く実感します。



また、違う角度から振り返りますと、PTAが今、その歴史的役割の問い直しを迫られている状況にあります。PとTの新しい協働の形の模索と共に、地域学校協働活動・本部や学校運営協議会との関係性を含め、これらを1つの土俵の上で整理し、再構築することが求められているのだと感じます。とりわけ、その際における学校リーダーの役割は甚大と感じました。（大学）

講評・閉店行事 + 午後へのつなぎ

最後に、山口県教育庁教職員課の杉本昇三管理主事が、教職員の成長に対する県教委の取組、今回の保護者と現職教員、学生や大学教職員等が豊かに語りあうNITSカフェ（スタイル）の意義や魅力等に関する講評を行いました。

そして、NITS 山口大学センターの和泉研二センター長が謝辞および閉会挨拶を行い、今回の「現職教員と教職志望学生が保護者とともに創る協働セミナー」を終了しました。

なお、今回のCaféは、（独）教職員支援機構（NITS）「NITS・教職大学院・教育委員会等コラボ研修プログラム支援事業」の支援を受けて行いました。関係各位に感謝いたします。



参加者のコメントから Café（形式）に関連して ～2本のCaféをとおして～

- ・ カフェの魅力は、同じテーブルを囲み、志ある人々が立場、校種や年齢を越えて、フラットな関係性で語りあえるところと思う。多様な考え方、自分に無かった視点にふれる中で、「お前の捉え方や理解の仕方って本当に大丈夫か？ それでいいのか？ 違う見方考え方があるんじゃないのか？ 改めて考え直してもいいんじゃないか？」と問いかけてくれる感じがする。

カフェは、自身の教育「観」を振り返り、明日からの自分を前向きにとらえ直すことができる貴重な場であって、今回も保護者の方の視点を伺うことができることを楽しみにしていた。

カフェのような「しなやかな空間」で、今回なら保護者と教職員であるが、関係する多様な人たちが情報や思いを共有することが、現場での研修や会議でも必要な時期に来ているように思える。それが共通の目的に向かって協働できる条件かもしれない。今回のカフェのようにテーブルを囲み、子どもの成長を話題にして話す場を各地で広げられないかと思った。ぜひ実施してみたいと思っている。（小学校）



- ・ カフェ形式で話ができると、ゆっくりとした雰囲気に対話ができるので、非常にありがたく感じました。話題がざっくりと決められているため、その場にいるメンバーだからこそ生まれる話題があり、とても楽しい時間を過ごせます。

毎年行われる保護者の方との交流も含めて、カフェは本当に楽しみにしています。このカフェや「ちゃぶ台次世代コーホート」での経験があるからこそ、学校の保護者の方とも話してみようと思えるのだと感じるし、どんな立場の方とでも、ゆっくりじっくり話すことで思いを共有し、同じ方向を向いて進んでいけるという経験を積み重ねられているように思います。参加できていることを改めて感謝です。（小学校）



- ・ 教職員とは違う立場の方と協議する機会は貴重です。その中に教職を希望する大学生がいるのは、大学生にとって教職へのよい準備になったと思われます。（中学校）



- ・ 今回のカフェ形式は会場の雰囲気もあってか、今まで以上に意見交換が活発に行われた。学生の参加も多かったが、新採の先生など現職の先生にも学びになることが多いと思うので、ますますの活性化を望んでいます。（高校）

- ・ 今回は会場が「セントコア」だったこともあり、飲み物の準備等がされていたので、「カフェ」っぽさが余計にあったように感じた。円卓を囲んで話すのも良かった。しかし、人数が多く中央の席だったこともあり、またインフルエンザが流行していたことからマスクをされている方も多く、話が聞きづらい場面もあった。時期をずらす、会場を分ける等に対応可能ではないかと感じた。（小学校）



- ・ いろんな立場の方が、カフェ形式で話すことは、「なるほど」と気付かされることが、度々ありました。学校では、地域の方や、保護者の方に、助けていただく一方的なお願いが多い気がします。カフェ形式で、気軽な感じで一緒に企画していく、提案していく、その素を作れる会があると素晴らしいと思います。そのために、「学校の先生は大変だ。忙しい。」と思わせない立ち振る舞いが大切なのかなと思いました。（小学校）

- ・ ポスターセッションが非常に良かった。他の班の意見を見るだけでも参考になったが、説明を聞くことで、内容だけでなく、どうしてそのようなアイデアに至ったのか、過程を詳しく知ることができた。また、小・中・高の校種による違いも感じた。（学生）





NITS・山口大学教職大学院・山口県教育委員会コラボ研修
プログラム (NITS-Café) 学級通信
「誰一人取り残されない学びの保障と不登校を考える NITS カフェ」
2025.1.5 NITS 山口大学センター・山口大学教職大学院



「誰一人取り残されない、取り残さない」学校や地域づくりと一緒に考える Café！ 子どもたちの現状をどう見る？ 不登校をどう捉える？ さあ今日から何を、どうする？

この日、12月21日は、私たち NITS 山口大学センターにとっても、教職大学院にとっても初めての試み！
1日に、研修内容や参加者、対象等の異なる「2つの NITS-Café の連続開催」です。

参加してくれた皆さんもそうですが、企画・準備・運営する側も「チョータイヘン！」バタバタの1日でしたが、そこは「皆さんの学びと変容と成長のためなら...心配ないさ〜！（このフレーズから「劇団四季のライオンキング」と出るか「大西ライオンさん」と出るかは微妙です！ あなたはどっち?）」ということで、この日の午後は「不登校」に焦点をあて、「誰一人取り残されない」学校や地域づくりや日々の教育実践を牽引できる教職員の力量形成、気づきと変化を生み出す Café です。

今回は、教職員24人、教育委員会関係者3人、教職大学院や学部段階の学生51人、大学関係者15人に NITS 関係者4人の計100人が参加しました。短時間でしたが中身の濃い研修会。概要を報告します。

講演 学びにアクセスできない子どもたちと関わって ～不登校をどう捉えるか～ 栗原慎二さん

開会行事（挨拶や諸連絡）に引き続いて、広島大学大学院人間社会科学研究科教授、公益社団法人学校教育開発研究所代表理事の栗原慎二先生に講演をお願いしました。

さすがに、長年、学校教員や専門機関の担当者、指導者として、いじめ、不登校や教育相談等に関わったいらした栗原先生。豊かなご経験や指導事例等をもとに、高度専門的ながら私たち自身や現場実践にピンポイント響く、突き刺さる質の高いご講演を頂きました。

児童生徒の現状、今後の生徒指導の在り方、岡山県や宮城県で展開された包括的生徒指導プログラムの実証結果、マルチレベルアプローチと成長・適応支援の在り方、ピア・サポートや協同学習の意義、social-bonds 理論と不登校や協同的な学習と個別最適な学習を可能にする Universal Design for Learning 等の内容は「目から鱗」でもあって。栗原先生、本当にありがとうございました。



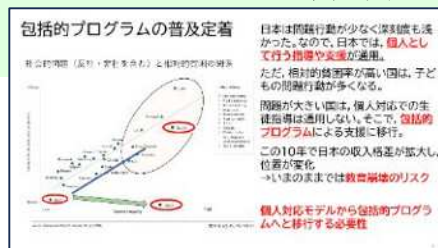
参加者のコメントから、ごく一部ですが紹介します。



- ・ 不登校対策として、支持的風土のある学級づくりや心理的安全性の高い教室空間、仲間づくりの重要性を改めて実感しました。これらを一体的に進めるためには、教室単位だけでなく、職員室経営や研修体制づくりといった学校組織に相似形として取組を学校や地域に拡大することが有効と考えます。また従来の「生徒指導」の概念が指導の側面に偏りがちであった

点を反省し、発達支持的生徒指導への転換をめざす必要性を痛感しました。この視点から、求められる生徒指導を「生徒支援」としてリフレーミングすることが、子どもたち一人ひとりの成長を支えるための鍵であると理解しました。得た知見を、学校現場での具体的な実践に活かしていきたいと思えます。（小学校）

- ・ 改めて学級経営が果たす役割を再認識させられる時間となりました。一方で、現在学校では「チーム学校」「働き方改革」といった新たな概念の中で、従来の「学級像」が再構築されつつあります。こうした状況の中で変容する「学級」の機能や役割が個々の子どもに与える影響は大きく、こうした問題を含めた俯瞰的な議論も一方で必要になるだろうと考えます。また、「集団 - 個」の問題は常に相対化して検討する必要があり、今回は「集団づくり」の観点からのお話でしたが、不登校の臨床的な場面においては個々の子どもが抱える背景の問題を全く切り離して考えることは難しいかもしれません。しかし、そのことを敢えて考慮しないことによって、学級経営がなし得る可能性、ひいては教職の可能性が浮かび上がってくると思いました。「一人一人の子ども同士の関係性」を紡ぐことのできる教師は、いつの時代も普遍的な教師の大切な力量なのだと再認識したところです。（大学）



- ・ ストレートに刺さることが多かった。不登校対応として、子どもにとって教室につながる友達をつくること、教師は友達関係や勉強で困っている子を支援する姿勢をもつこと、つまりよい学級経営をすることが不登校の予防になる、学校経営や学級経営によって不登校は減らせるというお話が印象に残っている。不登校を子どもや家庭に原因があるという見方ではなく、教師の在り方に目を向けることが求められていることである。

学習については、子ども一人ひとりに合った形で子どもが活動できるよう、教師は学びのエキスパートになることが求められている。子どもを主体的な学習者に育てるために、よいクラスをつくるには教師が何をするのか、授業デザイン力が必要になってくる。(中学校)



- ・ 胸にグサッと刺さるようなお話が多くありました。不登校について、その理由はシンプルであり、先生は子ども達全員が学校や学級を好きでいられるような支援について考えていく必要があるのだなと思いました。子どもが学校を好きでいられるような環境を先生がつくっていく、というようなことをよく言っていますが、栗原先生が環境づくりは子どもがすることだと仰っていて、その言葉が特に心に残りました。子どもがそのような環境づくりをしていくことができるように、先生は支援を考えていく必要があると感じました。教えるのではなく見守るということについて、まだ具体的なイメージを持つことができていないため、もっと様々な方と話をしたり、自分から子どもと関わる機会を得たりしながらイメージを持っていきたいです。(学生)

- ・ 初っぱなから厳しいご指摘があった。不登校の生徒は「先生×」「友だち×」「勉強×」、学校(教員)は、この非常にシンプルなことを忘れて、「この子は家庭に問題がある」と言い、すぐに、SCや外部機関とつなごうとする。これは、耳が痛くなる話だが、凶星であろう。

不登校対策と言えば、現に学校に通っていない、または欠席が多い生徒の対応ばかりを考える。しかし、欠席日数は「ゼロ」であっても、心の中では「不登校」の生徒もたくさんいる。私たちは、この子たちのことも含めて不登校対策を論じる必要がある。講話では、学級経営、そして授業経営の改善の必要性についての指摘があった。特に後者については、残念ながら、多くの教師が「多忙」を理由に、おろそかにしている。結局は、どんなに教育相談機能を充実させたとしても、生徒が大半を過ごす、学級での生活、そして学び(授業)が変わらなければ、不登校問題を解決することは困難である。

栗原先生のご指摘には説得力があった。それは、大学教授だからではない。かつて高校教師として、心の荒れた生徒、悩みを抱える生徒と向き合ってきた経験をお持ちだからである。学級経営(集団作り)においては、経験で培った勘だけでは限界があること、理論、戦略が必要だと話された。これがなければ、教師は、時代の変化(子どもの変化)に対応できない。自らのこれまでの教職経験を振り返り、これからの在り方を考えるよい機会となった。(中学校)



- ・ 不登校の要因を家庭のせい、子どものせいにするのではなく、学校の責任として捉えることの大切さを改めて感じた。子ども同士のピアサポート、温かい学級経営、誰一人取り残さない授業改善を進めることが発達支持的生徒指導であり、不登校の未然防止に資することは疑いようがない。一方で、地教委としてそのための研修機会を設けてはいるが、現場は間に合っていないと感じることが多い。教員の不足、若手教員の増加、価値観の多様化により、「誰一人取り残さない」が(少なくとも管内の学校では)十分に機能していない。今のスタッフでそもそも物理的に可能なかとも思ってしまう。もちろん、個々の教員のスキルを間断なく磨き続けることは必要であるが、教職員定数の改善による複数担任制や小学校での専科教員の配置も必須なのではと考える。(教委事務局)

実践事例研究 小学校・中学校における不登校への取組 中川真治さん、山本豊三さん

続いて、現場での先進的実践事例(2発表)に学ぶ研修です。まずは「中学校における不登校への取り組み」について山口市立大内中学校の中川真治教諭に、次に「オンライン活用による不登校児童の支援」について萩市立川上小学校の山本豊三校長にお願いしました。

中川先生は、山口県で進む「ステップアップルーム(SUR)」サポート教員アドバイザーとしての経験をふまえ、山口県における不登校の現状、不登校の捉え方と魅力ある学校づくり、大内中 SUR の現状と取り組み等を、山本先生は、「教員は腹をくくって立ち向かう。管理職は全力でサポートする。」学校づくりの大切さを語られた後、タブレットやアプリ活用による不登校対応の様子や環境整備の大切さ、生活リズムのサポートや児童のペースに合わせた支援等について発表がありました。中川先生、山本先生、ありがとうございました。

参加者のコメントから、ごく一部ですが紹介します。



- ・ 不登校対策には環境整備と支援体制が重要であることが深く理解できました。不登校からの改善を、単に「登校させる」という結果に限定するのではなく、一人ひとりの社会的自立や主体的な進路選択を支えることに目を向けていることが印象的でした。

多様な仕組みが整えられている点も印象的でした。特に安心・安全な居場所づくりや心理的安全性を確保し、仲間とのつながりを深める仕組みが整えられている取組は、子どもの心の安定につながっていることが伝わりました。子どものペースに合わせて、心理的負担を軽減しながら学びと社会的つながりを保障する理想的なモデルとして、大変参考になりました。（小学校）

- ・ お二人に共通した不登校支援として、オンラインを活用していることがある。特に、発表の中に「学びの保障」という言葉があり、不登校の児童・生徒にも教育を提供する必要を改めて感じた。また、スモールステップの形で、児童が学校に来ることができるよう、自己選択させている点も学んだ。不登校でもコミュニケーションを途絶えさせないという思いが、お二人の講演から伝わってきた。

一方で、オンラインには限界があることを決して忘れてはならないとも感じる。コロナ禍を経験した身としては、オンラインだと話しても話した気にならず、記憶に残りにくいし、むしろ疎外感が高まったような経験を何度もした。改めて、生のコミュニケーションを通して実際に人と触れ合うことが大切だということを、普段から子どもたちに伝えることも大事だと考える。（学生）



- ・ 中川先生の言葉「子どものこと聞いてなかったな」「苦しいときこそ自己決定が大事」～障害者権利条約の合言葉「Nothing About us without us」を思い出した。私たちのことを私たち抜きで決めないで。障害の有無に関係なく誰にとっても大切なこと。自己選択自己決定の先に幸福感があると思っている。大事なことを思い出せた。

山本校長先生の言葉「『つなげる』『保障する』『自分事と思える教師集団』」～カフェの中で「組織的に考えていく」ことは「自分事の意識が薄まる」との意見を聞いた。自分の今の立場では、担任が個人の判断で行動した結果状況が悪化したまたは信頼関係が崩れたというケースをよく見る。だから自分の改善案として「組織で検討、判断する」の考えをもっていた。しかし「自分事の意識が薄まる」という見方もあることに気付いた。このレポートを書きながら改めて振り返り、山本先生の「自分事と思える教師集団」が重要だということを実感している。（教委事務局）

- ・ ステップアップルームの取組から、生徒一人ひとりの個性を大切にしながら環境整備や活動を工夫していることがよく分かった。生徒にとって安心・安全な居場所になるよう、あえて教室のようなレイアウトにしないことや子どもたちが自己決定する場をもつことを重視している。こういった子どもに寄り添った支援はステップアップルームに限らず学校教育活動のあらゆる場面で必要なことであり、教師としてもっておきたい。

川上小は小規模校であり、少人数の中でも不登校児童の割合が高く、外国籍の児童がいるなど様々な課題がある。その中で、子どもや保護者はどうしたいのかということを大切に、学校と子どもをつなげるためにオンラインを活用している。ロイロノートで授業を家庭とつ



なげたり、eライブラリを使って家庭でもオフラインで活用できる環境を整えたりと具体的な不登校対応を学ぶことができた。児童の実態に応じてスモールステップでできることを増やす、選択肢を与えて児童に決定させたりするなど、児童に寄り添った対応の大切さを学んだ。（中学校）

- ・ どんなことでも「まずはやってみる」という姿勢が大切だと改めて感じました。不登校対応には正解や不正解がないからこそ、教員が行動を止めてしまったりはいけなく強く思いました。実践発表では多くの元気をいただき、大変ありがたかったです。（小学校）



カフェ 誰一人取り残されない学校づくりのために

その後、校種別・班別の Café を行いました。実は、研修時間が不足して、ごく限られた時間での Café となってしまいました。運営の不手際をお詫びします。

が、参加者の皆さんは、今回も、Caféでの話し合いの質を高めるため、そして教員個人の取組を学校組織全体の動きの中で捉え、家庭や地域社会との連携・協働を意識して考えられるために（一応考えてつくった）

「宿題(事前探求課題)」をやってきてくれました。本当にありがとうございました。

お陰様で、児童生徒の見取りと教育相談、日頃の学級・集団づくりと授業改善、早期発見・早期対応、教職員の協働性向上や家庭教育支援等について、各 Café で活発に経験交流や好事例交換がなされ、和やかな空気感の中で前向きで開発的なワークとなりました。皆さん、ご協力ありがとうございました。

参加者のコメントから、ごく一部ですが紹介します。

- ・ 不登校支援について議論した。私はこのカフェの時間、現職や学生と不登校支援について協議した時間が大変印象深く記憶に残った。
学生は、学生なりの視点で不登校支援を真剣に考えていることがよく伝わってきた。このようなクライシス事案に対しては、どうしても先行研究や先輩教員からの成功体験に基づいた経験談などがよく解決策として話題に上がる。
しかし、私はあえてここで述べておきたい。若手教員だからこそ見えている景色にこそ、その真実や解決策に多くが隠されているのではないかと。きっと、若手教員の中には不登校に関わる事例を身近な存在として体験してきた人も多いだろう。教員として児童目線、生徒目線を大切にしたいと考えるならば、我々ミドルやベテラン教員こそ、積極的にこのような情報に触れて、新たな知見を知る必要があると感じた協議であった。(小学校)
- ・ Café や全体を通じて「自分の何が変わったか」について。私の中で変わったことは、直感で行ってきた不登校対応を理論もあわせて考えることができるようになったことと思います。友だちとのつながりづくりは行ってきましたが、その有用性を、データをもとに十分に実感することができました。今後の教員生活にいかしていきたいと思います。今回も本当にたくさんの学びをありがとうございました。(小学校)



講評・閉会行事



実際には、中川先生、山本先生の実践事例研究に引き続く形でお願いしましたが、山口県教育庁学校安全・体育課の中村研一指導主事から、不登校対策をオール山口による「自分らしさ・つながり・成長の居場所づくり」と捉える山口県の不登校対策に本日の講演・実践事例発表の内容を加えた講評を頂きました。中村指導主事さんには、行事連続の一日だったようですが、その合間を縫ってご参加、講評を頂きました。ありがとうございました。

最後に、山口大学教職大学院の佐々木司専攻長が謝辞および閉会挨拶を行い、無事に NITS-Café 「誰一人取り残されない学びの保障と不登校を考える NITS カフェ」を終了しました。皆さん、ご協力ありがとうございました。

- なお、今回の Café も、(独)教職員支援機構(NITS)「NITS・教職大学院・教育委員会等コラボ研修プログラム支援事業」の支援を受けて行いました。ご支援ありがとうございました。
- 加えて、教職員支援機構から来て頂いた先生方はじめ、多くの会員の皆さんが、SNS 等を通じて、その様子や感想、たくさんの「お褒めの言葉」や「イネ！」を発信してくださいました。有り難いことです。「NITS-Café」や「ちゃぶ台次世代コーホート(Basic・Advanced course)」のファミリーがますます各地に広がっていきますように、本年も宜しくお願いいたします。(事務局)

ちゃぶ台次世代コーホート（第 7 回研修会）開催要項
同 Advanced Course（第 10 回研修会）開催要項

- 1 趣 旨 教職志望学生と若手教員等が、教員としての資質能力の向上、教職実践課題の解決力や省察力等の醸成を図ることを目指した協働型教職研修を行う。
特に、授業づくり、授業実践における学びの捉えやカリキュラム・マネジメントに関する講義、受講生相互の交流や対話等をとおして、教職キャリアの形成や充実深化を図る。
- 2 主 催 山口大学教育学部・大学院教育学研究科（教職大学院）
独立行政法人教職員支援機構、同 山口大学センター
- 3 共 催 山口県教育委員会、山口市教育委員会
- 4 開催日時 令和7年3月15日（土） 13:00～17:00
- 5 開催場所 山口大学教育学部「21 番教室」（教育学部講義棟 2 階）
〒753-0831 山口市大字吉田 1677-1
- 6 参加者 教職志望学生、教職大学院生、現職教員、教育委員会等関係者、大学教職員等
- 7 研修内容
 - (1)開会行事 (13:00～13:10)
あいさつ 山口大学教育学部 学部長 鷹 岡 亮
 - (2)講 演 (13:10～15:40)
テーマ 「教科と探究をどうつなぐか ― 対話型論証を中心に ―（オンライン）」
講 師 京都大学大学院教育学研究科 教授 松 下 佳 代 さん
 - (3)ちゃぶ台対話 (15:50～16:50)
内 容 「1 年間を振り返って ～1 年の歩みと新たな問い～」
支援者 山口大学センター・教育学部・教育学研究科教職員等
 - (4)まとめ・閉会行事 (16:50～17:00)
講 評 山口県教育庁教職員課 管理主事 丸 山 茂 生
あいさつ 教職員支援機構山口大学センター センター長 和 泉 研 二
8. 「感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）」にもとづく取扱（お願い）
 - (1)本研修では、主催者として「感染防止の 5 つの基本（厚生労働省 ADB,2023.3.8）」を参考として感染予防に努めるとともに、受講者一人一人に感染防止に向けた責任ある行動を要請する。
 - (2)研修地域や受講者居住地の感染状況や推移、研修関係者の意向等をふまえて、研修形態を「対面・参集型研修」から「（完全）オンライン研修」等に変更する場合がある。
9. その他
 - (1)本研修事業は、独立行政法人教職員支援機構地域センター（山口大学センター）事業経費および山口大学教育学部「ちゃぶ台プログラム」事業支援経費等により運営される。